

<>はおもな地点をあらわしています

*アキアカネ



季節のできごと ・ドングリを探してみましよう。特に社寺林<A>、育成林のまわりに色々な種類の木があります。クリもドングリの仲間です。

・蝉時雨から虫時雨へ。原っぱや道沿いに、樹木より少し早めに草紅葉が楽しめます。

エノコログサ、ススキ、イヌタデ、イネ、ヘクソカズラ、クサギなど日々変化していきます。



*ヒガンバナ

スダジイ/シラカシ

アラカシ

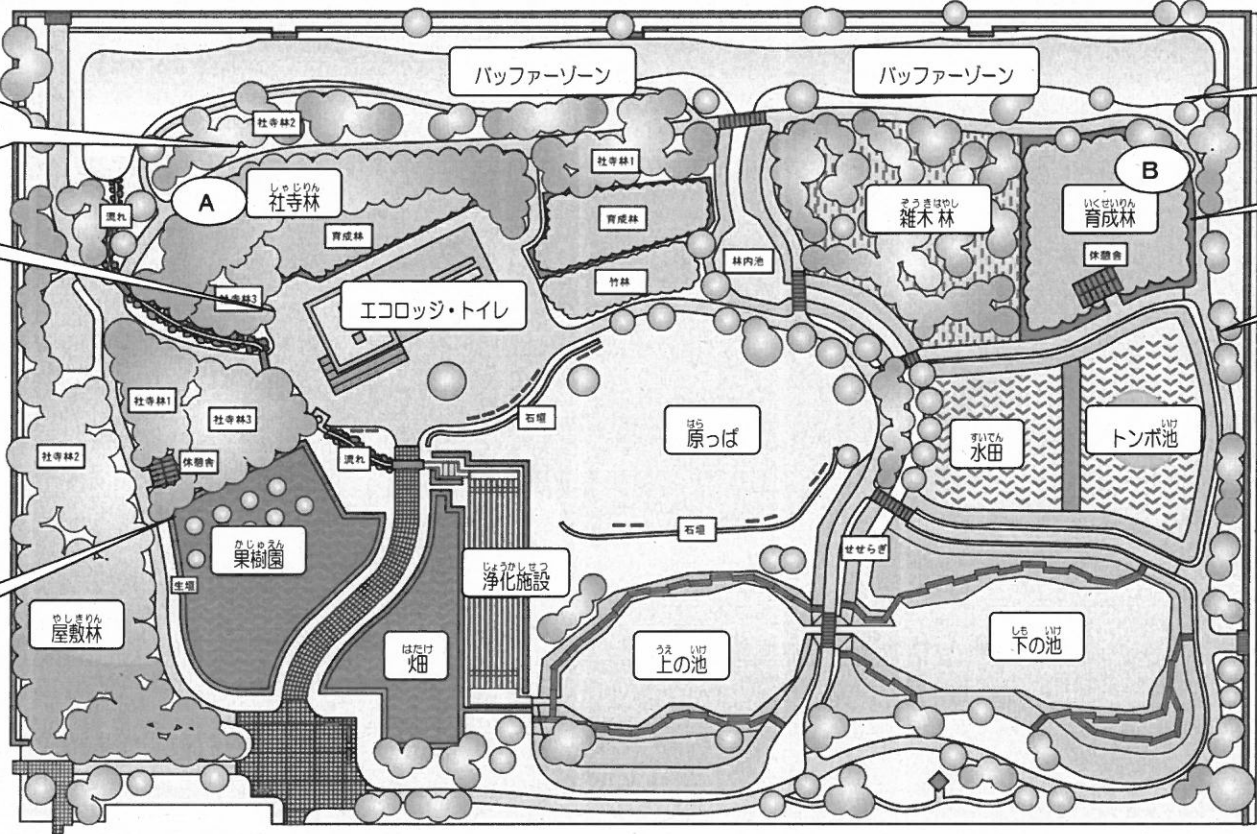


ツグミ

クリ

ていりぐち 出入口

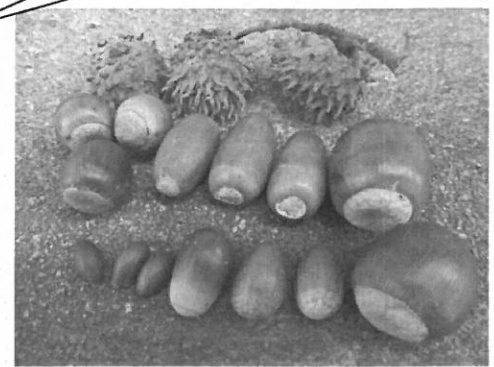
エノコログサ



シラカシ

クヌギ/コナラ

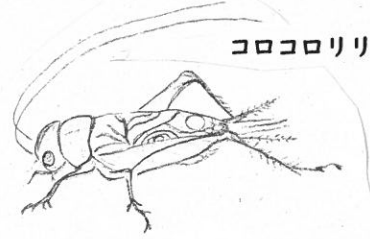
マテバシイ



てんぼうしつ 展望室

* 印は、裏に説明があります。

読んで参考にして下さい。



エンマコウロギ

ドングリのなる木

ドングリとは、ブナ科の樹木になる果実の総称です。実の一部または全体を殻斗と呼ばれ、お椀のようなものに覆われているのが特徴です。一番外側の堅い皮は果皮で、渋皮のなかに種子があります。ドングリは種そのものではなく、果肉のない果実なのです。春に開花受粉し、その年の秋に実をつける1年成と、翌年秋に実をつける2年成などがあります。

シラカシ

・常緑樹
・1年成

シラカシは、冬の季節風を防いだり防火のために、昔から神社や屋敷のまわりに植えられてきました。殻斗は、縞模様です。似たものにアカガシ、アラカシがあります。

木材が白っぽいのでシラカシですが、実は、比較的颜色が濃く、タンニンを多く含んでいて渋いです。



スタシイ

・常緑樹
・2年成

シノキとも呼ばれます。葉は細長い卵形で先端が尖っていて、葉の裏が茶色っぽいです。殻斗は実の全体を覆っていて、上部が3つに裂け、細長い実が現れます。シイ類の実は小動物の大好物です。



クヌギ

・落葉樹
・2年成

古くは国木(くにぎ)と呼ばれ、木炭の材料として重用されました。カブトムシやクワガタが大好きな甘い香りの樹液を出す木でもあります。殻斗は大きく丸い形が独特です。カシワの殻斗に似ています。

小さな丸い穴があいたドングリがあったら、シキソウムシの産卵跡です。幼虫はドングリの中で育ち、実が落ちると地中で蛹になります。

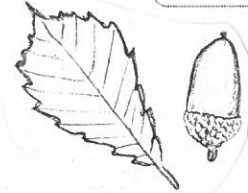


コナラ

・落葉樹
・1年成

幹は薪にしたり、シイタケのホダ木に使われます。落ち葉は水田に働き込んで、肥料に利用されます。

その実は、シラカシのドングリとよく似ていますが、殻斗はうろこ模様(鱗片:りんぺん)です。うろこ模様は他にマテバシイがあります。



アキアカネ

アキアカネは、羽化したときは麦わらのような色をしています。夏の間、涼しい高原へ行き、秋になると体が赤くなり、集団で平地に戻ってきます。「アカトンボ」は、特定のトンボではなく、体が赤くなるトンボを指す俗称です。秋に群れをなして戻ってくることから関東ではアキアカネのイメージが強いようです。



ヒガンバナ

彼岸の頃に咲くからヒガンバナ、田んぼの畔道沿いに咲いているイメージはありませんか。草全体にアルカロイドという毒成分が含まれ、田のあぜがモグラやノネズミなどにトンネルで壊されないように守ってくれます。葉に含まれる物質があぜの雑草(キク科の植物)の生育を阻害するとも言われています。昔から人々とつながりが深く、呼び名は100以上あるそうです。

